



峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
TEL 0553-20-2733
FAX 0553-20-2733

回覧・配付をお願いします。増し刷り配付はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

ご意見・ご感想，情報提供はこちらまで。Email：saegusa-aszn@pref.yamanashi.lg.jp

道徳講演会 「自分を好きになろう」

甲州市立塩山北中学校

7月10日，塩山北中学校で，「義足のハイジャンパー」として知られる鈴木徹さんを講師に招いて，道徳講演会が開かれました。本講演会は，山梨県教育委員会指定「小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業」，文部科学省指定「道徳教育実践研究授業」の一環として行われました。

会場となった屋内体育館には，鈴木さんの自己最高記録の2.00mに設定された走り高跳びのスタンドが設置され，壁一面に生徒が事前に調べ学習をした成果が掲示されていました。聴衆として，塩山北中学校の全校生徒・職員に加え，保護者，近在の教育関係者も参加しました。

鈴木さんは，鍛え抜かれた長身の肉体に，代表選手だけが身に付けることができるシャツを着て生徒の前に現れました。これだけで聴衆の目を引きつけるに十分でした。29年という年月にしてはあまりにも深い人生の体験と，それにどのように向かいあってきたかについて語る姿を，聴衆は真剣なまなざしで見つめていました。

5歳の頃生じた吃音によりいじめを受けたことで，小学校時代，鈴木さんは自分のことが好きではなかったといいます。山梨北中学校に入学して始めたハンドボールによっていじめを克服します。駿台甲府高校では国体3位という輝かし成果を収め，大学進学への道も切り開き，まさに勇躍飛び立とうとする間に不慮の事故は起きます。そして，右足膝下11cmを残して切断を余儀なくされます。

鈴木さんは，この事故はすべて自分の過ちから生じたものとして受けとめようと努めますが，相手の視線が自然と失った右足にいくのをつらく感じていました。その右足を隠したいがために引きこもり，そうすることで自分を守ろうとしていました。

その鈴木さんの心を開いたのは，200人を超える見舞いの人々でした。今まで限られた範囲で生活をしてきた自分に，こんなにも心配を寄せてくれる人たちがいることに，感謝の気持ちが湧き起こりま

した。

ハンドボール選手として再起を期すために，リハビリの一環で走り高跳びを始めました。そして，日本人初の代表選手として，シドニー，アテネ，北京と3大会連続でパラリンピックに出場します。そこで，義足さえ無いアフリカの選手，さらに重度の障害を抱えている選手などとの交流を通して，自らの境遇を相対化することにより，さらに活動の意欲を高めます。

現在，3年後のロンドン大会を見据えて練習に励む一方，今年5月には駿河台大学のハンドボール部の監督に就任するなど，いっそう活動の幅を広げています。

自己責任を貫く姿勢と同時に，「一人で生きているのではない。周囲から気づかれ，支援を受けることにより生かされている自分」を実感したことが，「自分を好きになる」きっかけとなったという鈴木さんの講演は，多感な時期を過ごす中学生から大きな共感を得たようでした。



講演後，生徒からお礼の言葉と花束を贈呈

「保・幼・小・中連携セミナー」報告

8/21 甲州市民文化会館

今回のセミナーでは、日本臨床心理研究所の中嶋 彩先生による「就学から就労へ」と題する講演と「現状を踏まえた連携活動の課題と対応について」をテーマとするグループ討議を行いました。

講演では、家庭と保幼・学校との連携、また、学年間、異校種間の連携について留意すべき事柄を指摘されました。子どもの指導にあたる大人が、目の前の子どもをよく見て、特性を知り、同じ視点で同じ困り感を持って教育していくことが連携の第一歩ですが、とても難しい一歩でもあることをあら



講師 中嶋 彩先生

ためて認識しました。

また、就学している間は、家庭や学校などさまざまな立場で教育支援を行うことができますが、就労してしまうとその機会が少なくなってしまいます。就学中に、就労後を見据えた支援を講じておくことが大切であるという指摘も大いに参考になりました。

後半は、グループ毎に、「現状を踏まえた連携活動の課題と対応について」をテーマに討議をしていただきました。各グループの討議内容については既に報告したところですが、参加者の感想をいくつか紹介します。

グループ討議の様子



- ・ 連携の大切さを痛感すると同時に、難しさも感じた。少しでも先へ行こうという話し合いの姿勢が先生方に見られ、有意義であった。
- ・ なかなか小中学校の連携の話は聞けないので、よい機会になった。
- ・ 地域の先生方との話ができて、いろいろなことを知ることができた。
- ・ なぜ連携が必要なのかという主旨が明確に分かる講演であったと思いました。
- ・ 中嶋先生のお話は、実践に基づいたもので説得力がありました。学校と離れてしまうと全く孤立してしまう子どもたちを、社会のシステムの中で扱っていけないものかと思えます。

保育所・幼稚園と小学校の連携

5月から6月にかけて、勝沼小学校、井尻小学校、東雲小学校の3校を訪問し、保育所・幼稚園と小学校の連携のための活動（授業参観、懇談会）に参加させていただきました。そのときの様子を紹介しながら、保幼小連携について考えてみたいと思います。

授業参観後の懇談会では、保育所・幼稚園の先生方から、「子どもたちが集中して学習に取り組んでいる」「具体物を使って操作活動を取り入れた授業に子どもたちが集中していた」など、子どもの成長ぶりに驚き、また、喜ぶ感想が数多く出されていました。

また、「小学校に入学するまでに、保育園ではどんなことさせておいたらいいのか？」「保育園でひらがなを読めるようにしておくといいのか？」等、相互に意見交流を行うとともに指導内容について共通理解を図っていました。懇談会の最後では、子ども同士の交流活動、保育所・幼稚園と小学校の情報交換について、今後活動していくことを確認していました。

それぞれの教育施設における子どもの生活や教育内容を、教師・保育士が互いに知ることが連携の第一歩です。子どもの育ちは保育所・幼稚園と小学校が連続しているという共通した認識に立ち、それぞれの成長の過程で指導のあり方を考える機会が必要であることをあらためて感じさせられました。

峡東地区内において、少しずつではありますが、保幼小連携の取り組みが貴重な実践として蓄積されつつあります。地域の状況に合わせて、創意工夫しながら、さらに取り組みを一步進めてみると、思わぬ発見と喜びに出会うことができます。



「発達と保育」

山梨高校 3年選択科目家庭科 7/16 (木)

山梨高校3年選択科目「発達と保育」の授業に、山梨市保健課保健師、少子対策課、子育てアドバイザーが出向いて授業を行いました。山梨高校では、平成18年度から、保育体験と進路指導を目的として、山梨市のつどいの広場「たち」および「やまなし子どもフェスティバル」に多くの生徒を参加させてきました。

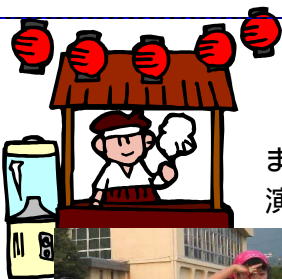
本日は、その事前学習として、3・4校時に「人文科学類型・英語総合コース」と「文科類型」の生徒合計18名が受講しました。保健師は自分達で手作りした「たいせつな命」というスライドを大型スクリーンに映し、「お腹の中の赤ちゃん」、「妊婦体験」、「赤ちゃんとの一日」、「命のバトン」、「社会で見守る子どもたち」、「ベビーマッサージ」、「児童虐待」などについて、生徒の反応を確かめ、生徒の意見を引き出しながら授業を展開しました。

また、つどいの広場「たち」の活動を通して、山梨市の子育て支援事業についての紹介があり、出産から育児まで安心して子育てができる環境づくりについての話もありました。

受講したのは全員が女子生徒で、近い将来の自分を想像してか、真剣な面持ちで興味深そうに授業に参加する様子が印象的でした。



保健師さんによる授業



夏まつり

8/22 甲州市立東雲小学校

第16回目となる勝沼授産園（社会福祉法人ぶどうの里）による夏まつりが催されました。夏まつりには、勝沼保育園、東雲保育所、東雲小学校の子どもたちも演技や演奏を行い、多くの保護者や地域の人参加でにぎわいました。



【写真】左より

勝沼保育園、東雲保育所、勝沼授産園、勝沼小学校

こどもチャレンジワークやまなし

8/23 牧丘B&G海洋センター

社団法人 山梨青年会議所主催「やまなし大好き祭り」が、山梨市牧丘町で開かれました。キッズパークエリアでは、小学生を対象とした職業体験事業が開催され、大勢の参加者でにぎわっていました。



【写真】左より

大工さん、アナウンサー、ヘアデザイナー、パティシエ

日川高校 芸術の秋

～「終わりになき芸術との戦い」～

平成21年度第30回山梨県高等学校芸術文化祭のテーマに、日川高校の2年生 広瀬 和哉君の「終わりになき芸術との戦い」が最優秀作品として決定しました。芸術文化祭より一足早く、芸術家の卵たちの活躍を紹介します。

「全国で優秀賞」(書道部)

「太郎を眠らせ、太郎の家に雪ふりつむ 次郎を眠らせ、次郎の家に雪ふりつむ」三好達治の傑作「雪」の詩を描いた、3年生の風間将人君の書道作品が、県芸術文化祭で「芸術文化祭賞」という最高の荣誉に輝き、8月の全国高等学校総合文化祭に出品し、「優秀賞」を受賞しました。

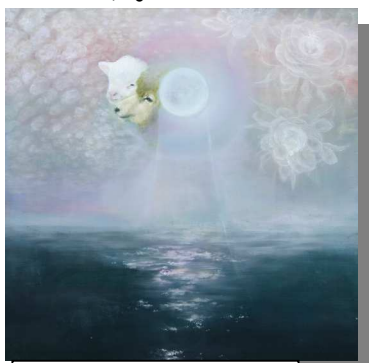


風間将人君

「文部科学大臣賞」受賞(美術部)

県内では唯一の児童・生徒の美術展として名高い「第35回 UTY教育美術展」で満月の神秘性を描いた、2年生の田邊愛奈さんの作品、「full moon shift」が、最高の「文部科学大臣賞」を受賞しました。

また、2年生の柳原織江さんの「sub specie chameleonis」も「テレビ山梨賞」を受賞しました。両作品とも県立美術館にて披露されたのち、今は、校内に展示されています。そのスケールの大きさと柔らかい色調に、多くの日高生たちが目を奪われています。



「full moon shift」



「sub specie chameleonis」

「全国NHK杯」出場 (放送部)

7月、放送部は、「NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会」のアナウンスや朗読など3部門に出場しました。中でも、禁煙をテーマにした作品『言うておくが吸わねえぞ!』が、ラジオドキュメント部門で準決勝進出を果たし、制作奨励賞を受賞しました。

また、8月には、「全国高等学校総合文化祭三重大会」に出場しました。そのビデオメッセージ部門で、郷土の美しい春の景色を伝えたいとの思いで制作された『わがふるさととは百桃に満ちたり』が高い評価を受けました。

放送部の皆さん
NHKホールにて



第56回 NHK杯全国高校放送コンテスト 決勝大会

とき 平成21年7月24日(金)

ところ NHKホール

スポーツマンの活躍

芸術家の卵たちだけでなく、スポーツマンも全国で大活躍です。この夏、インターハイに体操部・ウェイト部・柔道部が出場し、なかでもウェイト部は、3年生の雨宮成君が7位、2年生の雨宮賢君が4位と入賞し、立派な戦績を残しました。

